

ト申ケリ、其後嵯峨ノ瀧殿ノ阿闍梨重源ト云モノハ、重秀ガ孫ナリ、ソレヲ召テミセ給ケレバ、雅忠ガ申ヤウニ申テマカリイヅトテ、故資仲帥ノ五位藏人ナリケルニアヒテ、コノ御瘡、イツ愈給ベシト云事ミエズ、雅忠心エタル醫師也、明日御胸ヤミ給バ、大事ナルベシト申ケリ、マコトニ御胸ヤミテウセ給ヒニケリ、カサヤム人、胸ヤムハラハリノ事也トナム、

○按ズルニ重癰ニ水ヲ灌ギテ之ヲ治スル事ハ、外科治療條ニモアリ、

〔古事談三僧行〕源大納言師忠卿室家者、修理大夫俊綱之女也、久臥病席、熱氣如湯、親王授戒以香水灑之、其所點著、隨手清冷也、更洒遍身、忽以平愈、

〔中右記〕大治二年四月廿六日、此十餘日、右腰下有堅根、遠行之間、有更發音、召醫師成世、令見之處、其熱頗大、雖無恐、早以蓮可射之、由所申也、五月七日、從今日、堅根以柳洗、依成世申也、

〔皇國名醫傳後編中〕奥村良筑

奥村良筑號南山、越前府中人、略中初奉張子和、因以遡古道、極其變化、灌水治疾、古人多用之、然至癩疹之灌浴、前古所未聞、良筑實發明之、是類甚多、生平足跡未嘗出鄉關、其術皆數十年、仰思俯求之所獨得、

〔病家須知二〕食物能毒の心得を説略中

産後の眩運に、冷水の奇効あること、坐婆心研にくはしく其説を記たれども、今此編婦人須知の卷には、これを述て、俗家に示べし、其外、熱病の危篤證に、灌水得効ある辨、痘疹、驚癇、及癩疾、癩癩、狂癩諸症、痒、癢諸患、又は瘰狗傷てより、精神錯亂もの、或は頭熱經久止ざる、或は惡寒歲を累て愈す、或は久瘡諸治効なき類、及癩病初發、癆瘵初起に、灌水浴水、拊水、及瀑布泉を用る、差別、其佗の諸病に、冷水内服辨別など、予重野平野が多年の試験は、皆治術のうへのことにて、醫も其人にあらざれば、妄に説諭がたく、況俗家の理解し難ことのみ多ければ、此には具論せざるなり、